

庚申塔（こうしんとう）



自然の家しぜん いえの尾根おねにある庚申塔こうしんとう

庚申塔こうしんとうのことを知るには、まず「庚申こうしん信仰しんこう」を知る必要があります。

庚申信仰こうしんしんこうは、中国ちゆうごくの晋しんの時代じだい（西暦せいれき265年ねん～420年ねん）、道教どうきやうの思想しそうから始まり、奈良時代ならじだい（西暦せいれき710年ねん～794年ねん）の日本にほんに伝わりました。

人の身体ひと しんたいの中には三尸さんし（さんし）という虫むしがいて、60日にちごと毎めくに巡めぐってくる庚申こうしん（かのえさる）の日ひに、人々ひとが寝静ねしずまった

夜よる、その虫むしが体内たいないから出てきて天帝てんていにその人ひとの悪行あくぎやうを報告ほうこくし、怒おこった天帝てんていはその人ひとを早死はやじにさせてしまうのです。

ですから人々ひとは庚申こうしんの日ひは寝ねないで夜通よどおし起きていて、三尸さんし（さんし）が体内たいないから抜け出ぬさないようにしたのです。このとき一緒いっしょに過すごす人ひとたちの集あつまりを「庚申講こうしんこう」といいます。最初さいしよは、その夜よるを厳おごかに過すごすのが習ならいでしたが、平安時代へいあんじだいから「2ヶ月かげつに一度いちどの楽たのしい夜通よどおしの宴えんかい会ひの日ひ」となってしまう、娯楽ごらくの乏とほしかった時代じだい、全国ぜんこくの村々むらむらに一気いつきに広ひろがっていきました。

そしてこの信仰しんこうは、60年ねんに一度いちどの庚申こうしんの年ねんに庚申塔こうしんとうを建たてることを原則げんそくとしました。私わたしたちが峠路とうげみちなどで見る庚申塔こうしんとうはこうして建たてられたものなのです。

さて先程さき「60年ねんに一度いちどの庚申かのえさるの年ねん」と言いいましたが、次回じかいは2040年ねんです。

21世紀せいの庚申塔こうしんとうとは一体いつたいどんなものになるのでしょうか。